

### 3

## 婚姻・出産等の状況

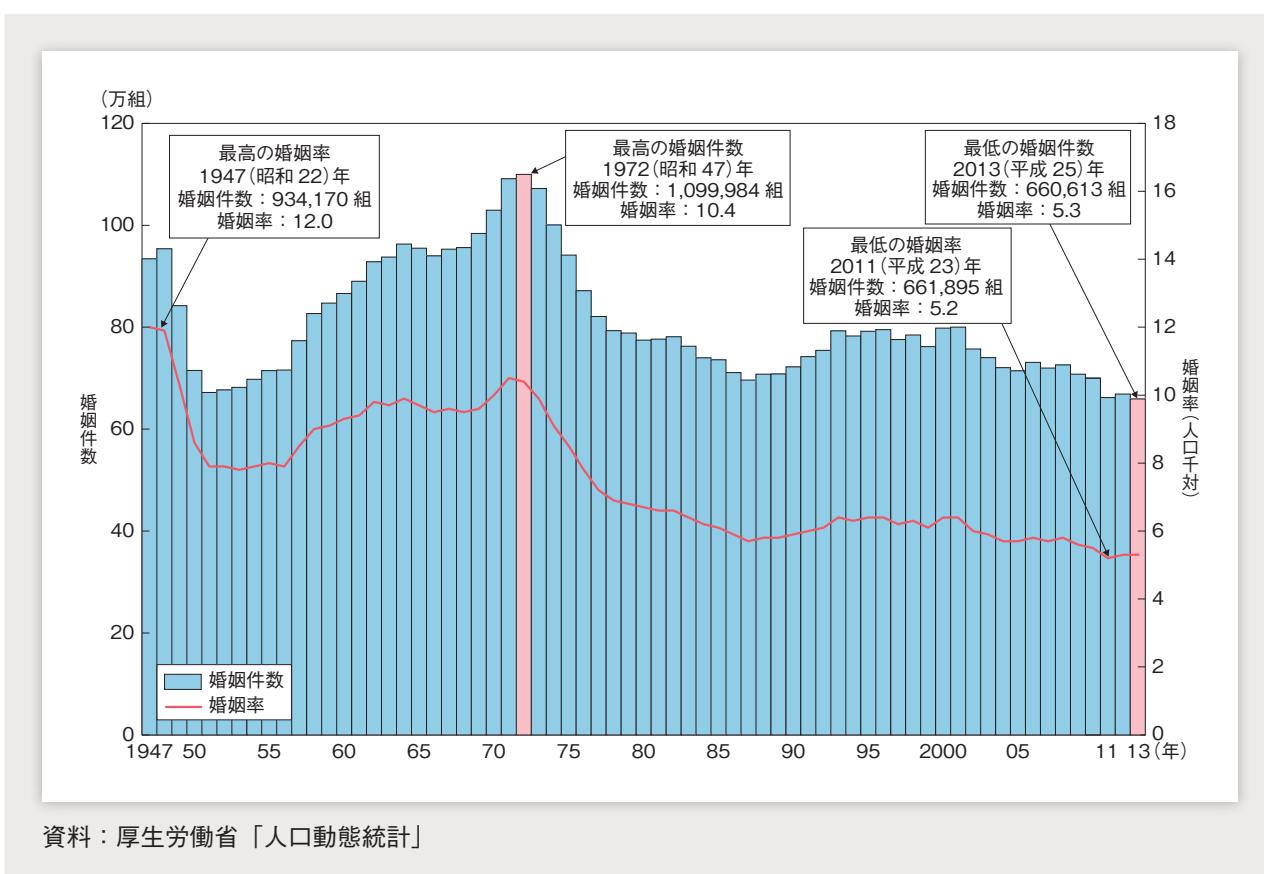
### 未婚化・非婚化の進行

婚姻件数は、第1次ベビーブーム世代が25歳前後の年齢を迎えた1970（昭和45）年から1974（昭和49）年にかけて年間100万組を超えて、婚姻率（人口千対）もおおむね10.0以上であった。その後は、婚姻件数、婚姻率とともに低下傾向となり、1978（昭和53）年以降2010（平成22）年までは、年間70万組台（1987（昭和62）年のみ60万組台）で増減を繰り返しながら推移してきたが、2013（平成25）年は、660,613組（対前年比8,256組減）

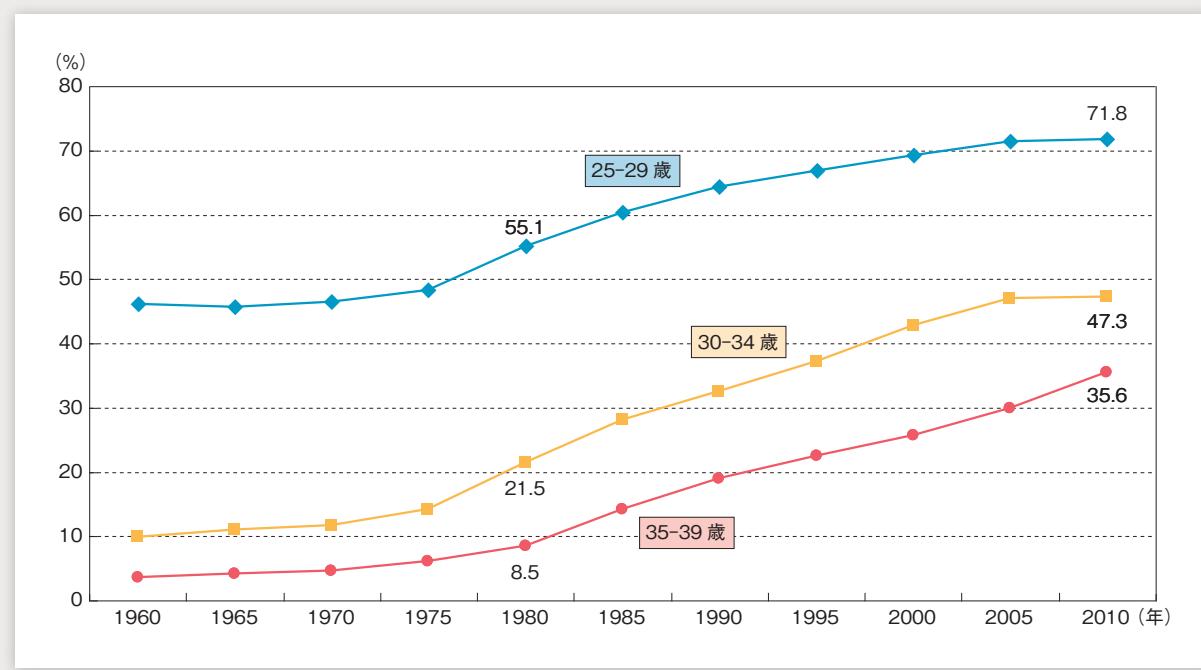
と過去最低となった。婚姻率は5.3で前年と同様の水準であり1970年代前半と比べると半分近くの水準となっている。

また、2010（平成22）年の総務省「国勢調査」によると、25～39歳の未婚率は男女ともに引き続き上昇している。男性では、25～29歳で71.8%、30～34歳で47.3%、35歳～39歳で35.6%、女性では、25～29歳で60.3%、30～34歳で34.5%、35～39歳で23.1%となっている。さらに、生涯未婚率を30年前（1980（昭和55）年）と比較すると、男性は2.6%から20.1%へ、女性は4.5%から10.6%へ、それぞれ上昇している。（第1-1-8図参照）

第1-1-5図 婚姻件数及び婚姻率の年次推移



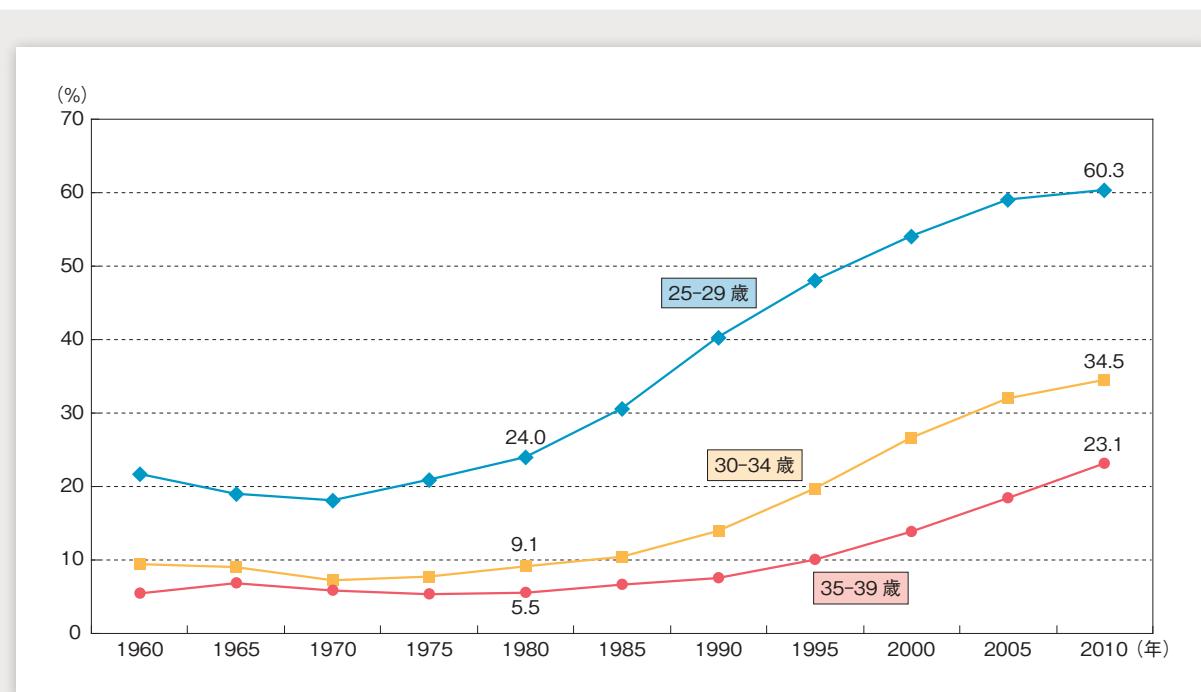
第1-1-6図 年齢別未婚率の推移（男性）



資料：総務省「国勢調査」

注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

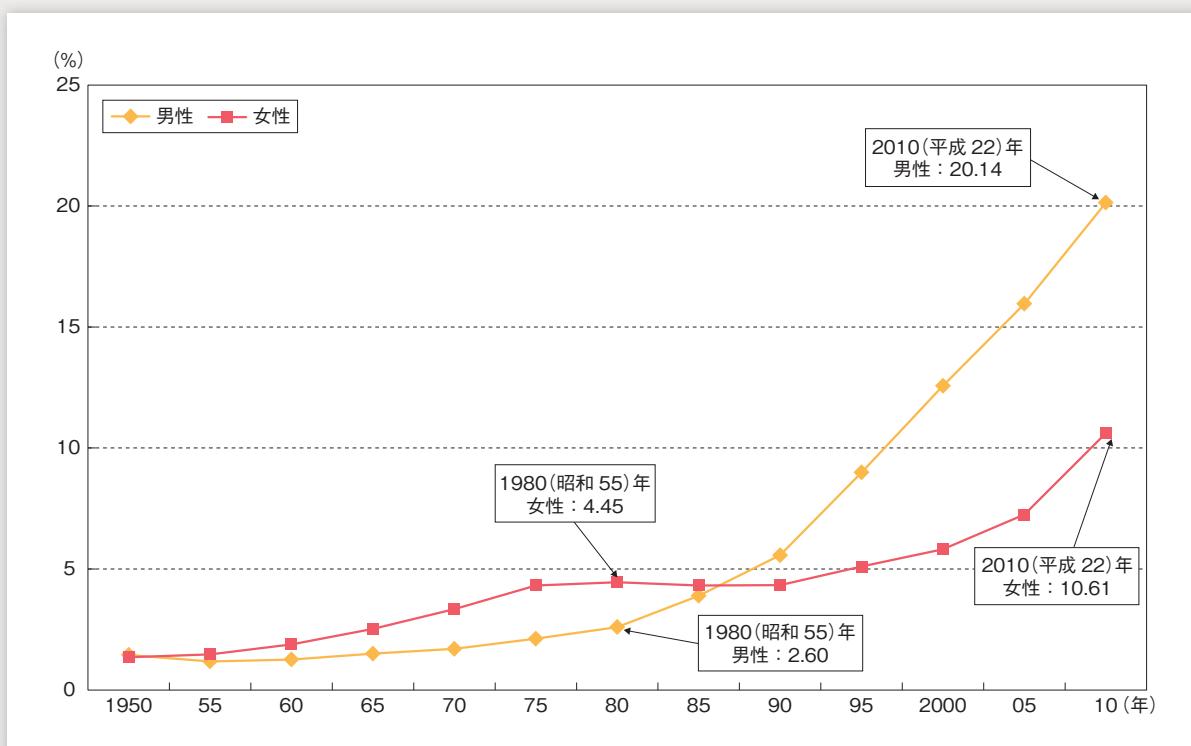
第1-1-7図 年齢別未婚率の推移（女性）



資料：総務省「国勢調査」

注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

第1-1-8図 生涯未婚率の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2014」

注：生涯未婚率は、45～49歳と50～54歳未婚率の平均値であり、50歳時の未婚率

## 晩婚化、晩産化の進行

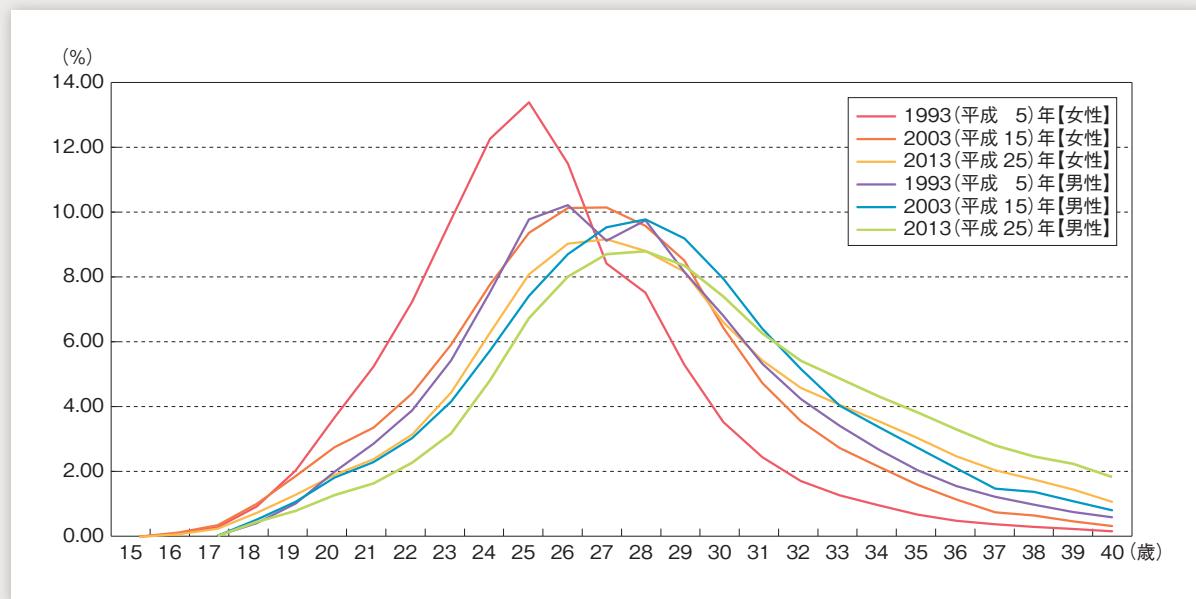
平均初婚年齢は、2013（平成25）年で、夫が30.9歳（対前年比0.1歳上昇）、妻が29.3歳（同0.1歳上昇）と上昇傾向を続けており、結婚年齢が高くなる晩婚化が進行している。

1980（昭和55）年には、夫が27.8歳、妻が25.2歳であったので、ほぼ30年間で、夫は3.1歳、妻は4.1歳、平均初婚年齢が上昇していることになる。

また、初婚の年齢（各歳）別婚姻件数の構成割合を1993（平成5）年から10年ごとにみると、夫、妻ともに2003（平成15）年においてピーク時の年齢が上昇するとともに、その年齢が占める割合は低下している。また、夫妻ともに高い年齢の割合が増加している。

さらに、出生したときの母親の平均年齢をみると、2013年においては、第1子が30.4歳、第2子が32.3歳、第3子が33.4歳であり、上昇傾向が続いている。

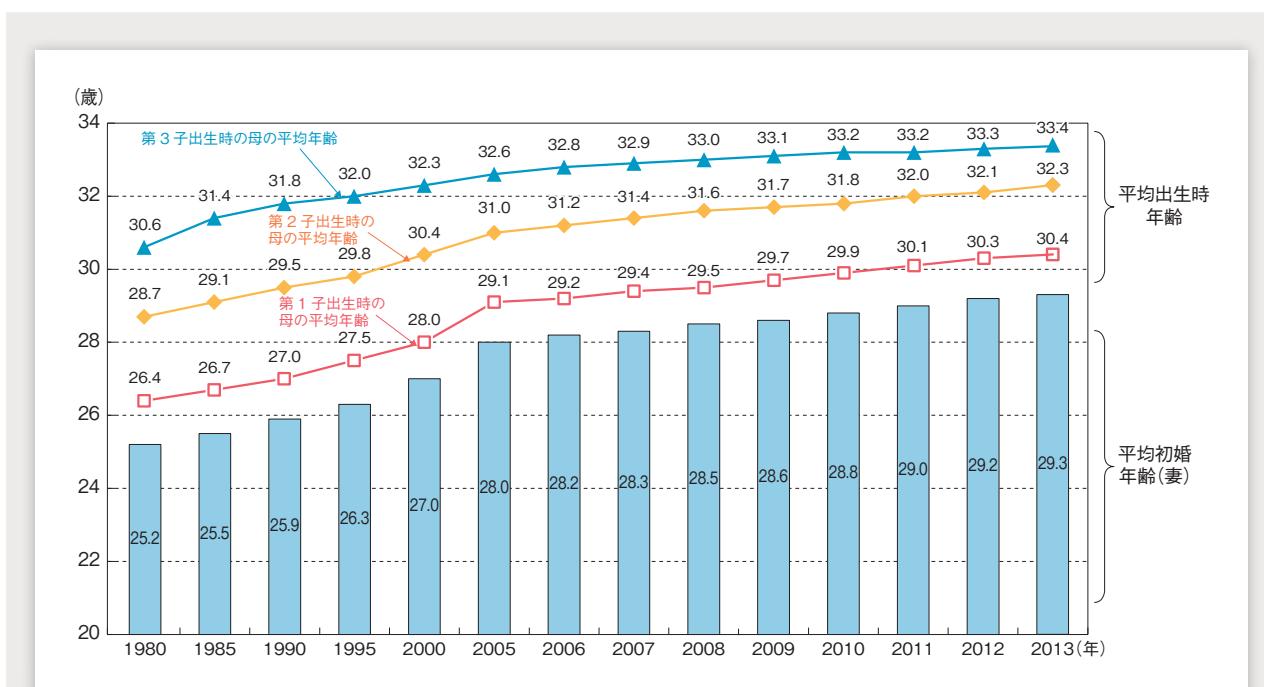
第1-1-9図 初婚年齢別婚姻件数の割合



資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成

注：40歳までの初婚件数を100とした場合の各年齢別の割合

第1-1-10図 平均初婚年齢と母親の平均出生時年齢の年次推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」